

問 ▶ 青少年の家 (☎ <76> 3432)



表彰を受ける鈴木さん

祝・新成人 「はたちの願い」作文・詩の最優秀作品を決定

新成人を対象に募集した「はたちの願い」の最優秀賞は鈴木礼華さん(池浦町)に決定しました。以下に受賞作品を紹介しします。作品は趣旨を損なわない範囲で要約をしています。

なお、1月13日にデンパークで開催した成人式にて表彰状を授与しました。

国際人として

私には将来、英語の教師になるという夢があります。将来日本を支えていく子どもたちに何か貢献したいというのが教師を目指す理由の一つです。

鈴木礼華

高校生の時、自宅に留学生がホームステイをする機会がありました。留学生と接する中で、自分が伝えたいことをうまく言葉で表現できないことや、生活習慣や文化の違いを感じ、私と彼らの間には言葉という壁だけではなく、もっと複雑で大きな壁があるように感じました。

そこで私は、もっと世界を見てみたいと思いい、留学を決意しました。語学力向上はもちろん、異文化体験を一番重要な目的としました。教育財団からの奨学金や家族の多方面からのサポートに感謝しています。

私が留学したオーストリアは、基本的にはドイツ語で会話しなければならず、当初は日常会話だけでも苦労しました。

留学を通して感じた一つに、日本でも重視されている「礼儀」の在り方があります。公共のルールや常識はもちろん存在しますが、国によってその基準など



に違いがあります。それは、習慣や文化、そして宗教の影響が大きいと感じました。その経験を通して、日本の礼儀や作法は、決して忘れさせてはいけないうものだと痛感しました。稀に、日本のここが駄目だ、海外はこんな感じがよいなどと優劣をつけてその国を捉えることがありますが、自国を物差しに考えることは、異文化摩擦の増加、国際化の障害になります。

現在では、留学が珍しくなくなってきました。だからこそ国際人のあるべき姿として、コミュニケーションの手段として言語を習得するだけでなく、異文化理解とは何かを学ぶ必要性を感じます。それが私の一番の課題です。

将来は、教師としてだけでなく、一人の社会人として世界を教えたいです。そのために大学では自分の好きなこと、興味のあることを納得するまで学んでいきたいです。